

千葉県市川市新山<sup>にいやま</sup>遺跡第23・24地点

事業名 東京外かく環状道路

所在地 市川市国分

調査期間 平成29年6月16日～7月14日

調査面積 100㎡(23地点)、33㎡(24地点)

主な時代 奈良・平安時代、中世

主な遺構 道路跡、溝

主な遺物 奈良・平安時代土師器

注目される遺構

今回の調査は歩道の拡幅に伴い実施した狭い範囲の調査でしたが、興味深い成果がありました。

新山遺跡は、国府台遺跡から北に延びる古代の官道が含まれている可能性が高い遺跡です。これまでの発掘調査においてもそれを裏付けるような成果が得られてきました。

今回の発掘調査の結果、道路跡とそれに付随する溝が確認されました。興味深いのは、確認された道路跡は、ローム層を約60cm掘り込んでおり、底面が硬化していたことです。その上には、微量のロームを含む黒色土が固い層状をなしており、地面を固い地盤とするため土を入れては突き固めるという作業、すなわち版築(はんちく)のような養生が行われた可能性もうかがえました。さらに外側で見つかった溝は道路跡と並行するように走っており、道路の側溝だった可能性があります。道路幅がどの程度あるのかは、今回の調査だけではわかりませんが、現在も使われている市川市と松戸市の市境となっている舗装道路の下に国府台地区の国庁推定地付近から北に向かう古代官道が存在した可能性が強くなってきました。



23 地点の道路版築



23 地点の道路版築 (拡大)



24 地点の側溝



23 地点の道路と版築